（別紙８）

［認知症対応型共同生活介護用］

# 1.　評価結果概要表

作成日　平成　21 年　5月　1日

【評価実施概要】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 0190400010 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人　手稲ロータス会 | | |
| 事業所名 | グループホーム　手稲ゆうゆう | | |
| 所在地 | 札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番5号<br>（電　話）011-688-1118 | | |
| 評価機関名 | 株式会社　社会教育総合研究所 | | |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F | | |
| 訪問調査日 | 平成21年4月28日 | 評価確定日 | 平成21年5月8日 |

【情報提供票より】（　21年4月　1日事業所記入）

（１）組織概要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開設年月日 | 昭和・平成　14年　4月　1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18　人 |
| 職員数 | 19 人 | 常勤　8人，　非常勤　11人，　常勤換算　13.4人 | |

（２）建物概要

| | |
|---|---|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート　造り |
| | 3 階建ての　3 階部分 |

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 家賃（平均月額） | 43,500　円 | | その他の経費（月額） | 光熱水費　19,800円<br>冷暖房費　5,100円 |
| 敷　金 | 有（　円） | | 無 | |
| 保証金の有無<br>（入居一時金含む） | 有（　円）<br>無 | | 有りの場合<br>償却の有無 | 有　／　無 |
| 食材料費 | 朝食 | 210　円 | 昼食 | 240　円 |
| | 夕食 | 330　円 | おやつ | 40　円 |
| | または1日当たり　820　円 | | | |

（４）利用者の概要（　4月　1日現在　）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 16 名 |
| 要介護１ | 4　名 | 要介護２ | 4　名 | | |
| 要介護３ | 5　名 | 要介護４ | 3　名 | | |
| 要介護５ | 2　名 | 要支援２ | | | |
| 年齢　平均 | 87.3 歳 | 最低 | 75 歳 | 最高 | 96 歳 |

（５）協力医療機関

| | |
|---|---|
| 協力医療機関名 | 西町内科クリニック、札幌秀友会病院、あおの歯科医院、手稲ロイヤル病院 |

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム手稲ゆうゆうは、札幌市郊外の、海を見下ろす自然豊かな住宅地の中の広大な敷地の中に位置する。運営法人は、地域貢献を志して21年前に社会福祉法人を設立して特別養護老人ホームを立ち上げ、その後多数の老人福祉施設を手広く展開するに至っている。当ホームは介護老人福祉施設、介護老人保健施設、居宅介護支援事業所などと併設し、これらが一体となって相互の利便を活かし合いながら運営されている。さらに近年、認知症対応型通所介護を組み入れて、地域から通う利用者と交流しながら、毎日繰り広げられる多彩なレクリエーション等により、活気のある生活を実現している。法人の堅実な運営により、職員の定着が良好で、安心の置ける介護が提供されている。

【重点項目への取組状況】

| | |
|---|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） |
| | 介護計画の見直し期間を6ヶ月から3ヶ月に短縮して改善を実現した。町内会、老人クラブへの加入は引き続き努力中であるが、会側の受け入れ態勢が整っておらず、いまだ進行中である。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） |
| | 管理者が作成したたたき台をもとに全職員が話し合って評価を作成した。その中で、職員それぞれが日常業務を改めてチェックし、マンネリ化の防止に努め、意識改革に役立てられている。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） |
| | 運営推進会議は2ヶ月に1回定例開催し、事業計画、事業報告、月間行事、年間行事、自己評価、外部評価の報告をし、意見、感想を得ている。報告が中心になってはいるが、家族からの要望、地域代表からの提言などが運営に活かされている。 |
| 重点項目③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） |
| | いつでも意見を言ってもらえる雰囲気作りに努めている。意見箱の設置、法人内第三者委員会設置、外部受付機関の公示などにより態勢を整えている。口頭による要望などは苦情受付簿に記録し、組織的に対策を検討して、運営に反映させている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） |
| | 小学校の学芸発表会を見に行き、区民センター祭・神社のお祭りに参加し、さらに法人合同の夏祭りに地域住民を招く、地域のボランティアによる傾聴、習字教室を受け入れるなどの交流を行っている。町内会、老人会への加入を働きかけているが、新興住宅地のため会の受け入れ態勢が整わず、いまだ実現していない。 |

# 2．　評 価 結 果 （詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>（取り組みを期待したい項目） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | | |
| **1．理念と共有** | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 一人ひとりの尊厳ある生活、家庭的な環境、能力を生かし、自立した生活、地域との交流を通して社会の一員としての生活を支援する、という内容の運営理念を掲げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は施設内要所に掲示していつでも見られるようにし、会議の時など、適宜必要に応じて理念に照らし合わせながら検討するなど、実践に生かした取り組みが行われている。 | | |
| **2．地域との支えあい** | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい<br><br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 小学校の学芸発表会を見に行き、区民センター祭・神社のお祭りに参加し、法人合同の夏祭りに地域住民を招き、傾聴、習字教室の地域ボランティアを受け入れるなどの交流を行っている。町内会、老人会への加入を働きかけているが、会の受け入れ態勢が整わず、いまだ実現していない。 | ○ | 幼稚園への訪問をはじめ、子どもとの交流を増やしてゆきたいとの意向なので、その実現に期待したい。 |
| **3．理念を実践するための制度の理解と活用** | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者が作成したたたき台をもとに全職員が話し合って評価を作成した。その中で、職員それぞれが日常業務を改めて見直し、マンネリ化の防止に努め、意識改革が進んでいる。外部評価では苦情受付簿の新設はじめ多くの提案を改善に活かしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>（取り組みを期待したい項目） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催し、事業計画、事業報告、月間行事、年間行事、自己評価、外部評価の報告をし、意見、感想を得ている。報告が中心になってはいるが、家族からの要望、地域代表からの提言などが運営に活かされている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 札幌市とは主に電話で質問・相談をしているほか、管理者連絡会議の際に担当者と接する機会を持っている。行政に関する多くの情報は他から得ており、地理的に不便なこともあって、直接の訪問は稀である。 | | |
| **4. 理念を実践するための体制** | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 法人機関紙「ぬくもり」と、グループホームの機関紙「ゆうゆう便り」が3ヶ月ごとに発行されて、全体の活動状況や、利用者の生活ぶりが報告されている。金銭管理は毎月の請求時に出納帳のコピーを送っている。必要に応じて個別の連絡をしている。 | ○ | 職員の異動については新入の際だけではなく、離職も含めて「ゆうゆう便り」などで報告することを期待したい。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | いつでも意見を言ってもらえる雰囲気作りに努めている。意見箱の設置、法人内第三者委員会設置、外部受付機関の公示などにより態勢を整えている。口頭による要望などは苦情受付簿に記録し、組織的に対策を検討して、運営に反映させている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 馴染みの関係による安心感を重視して、職員の労働条件の改善に努め、職場の信頼関係にも気を配って、離職を抑えている結果、常勤で3年以上の勤務が80%に及ぶ。多少の異動、離職があっても、そのことで利用者がダメージを受けることがないよう、過剰な依存関係に陥らないように配慮している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>（取り組みを期待したい項目） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **5．人材の育成と支援** | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人合同の施設内研修を2ヶ月に1回、グループホームの勉強会を毎月、年間計画に基づいて開催している。外部研修は職員ごとに計画を立てて、常勤で年1回程度派遣している。費用はすべて運営者持ちであり、時間は勤務扱いとなっており、計画的で積極的な職員の育成を行っている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br><br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者は、札幌市の管理者連絡会議、手稲区の会議に参加して情報交換、ネットワーク作りをしている。同業者数か所との個別の付き合いの中で、相互に訪問見学し、その結果を勉強会で話し合っている。 | | |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援**<br>**1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応** | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前には必ず見学してもらい、入院中以外は本人にも同行してもらっている。入居が決まれば管理者が自宅を訪問して詳しい情報を得ながら馴染みの関係を作っている。入居の当初は職員がそばにつき、声かけを多くし、話しやすい利用者と近くの席を取るなどして、馴染みの形成に努めている。 | | |
| **2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援** | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 出来る利用者はそれぞれ、家事や食事の準備、片付けなどに参加している。また、昔の料理の作り方やベランダの花や野菜の作り方、昔の歌などを教わっている。職員は利用者の長い人生経験に学ぶことが多く、勇気づけられることもしばしばである。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>（取り組みを期待したい項目） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| **１．一人ひとりの把握** | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 表現は少ないながらも利用者にはそれぞれに深い思いや意向があるとの認識のもとに、長年の付き合いの中で、表情やしぐさ、独自のサインを読み解き、把握する努力をしている。カンファレンスなどで職員同士が情報交換して理解を深め合っている。 | | |
| **２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し** | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 介護計画は詳細なアセスメントをもとに、医療情報も参考にして担当者と計画作成者が原案を作成している。その段階で本人の思いと家族の希望を聞き、本人を主体にした計画書をカンファレンスで確認し完成させている。家族の来訪時に内容を説明し同意を得ている。理解のできる利用者には説明することもある。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画作成者が中心になり介護計画は3ケ月ごとに見直している。申し送りなどで情報を交わし、介護記録や担当者からの情報も参考にして、ケアの達成度、変更、新しい課題などをカンファレンスで話し合い、次の計画に繋げている。退院後の状態の低下やケア内容が変わる場合は新たな計画を作成している。 | | |
| **３．多機能性を活かした柔軟な支援** | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 法人施設の医務室と常に連携がある。早期に退院し、介護老人保健施設のリハビリが受けられるように配慮し回復したこともある。日曜日には介護老人福祉施設の浴室を使い、施設でのボランティアによる催しに参加したり、出張店の買い物に出かけるなど、併設している法人施設の機能を活用し柔軟に対応している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>（取り組みを期待したい項目） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働** | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br><br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 専門的な治療が必要な時は家族の意向を入れて病院を決め、受診時には家族を通じて情報を共有し、分からない時は病院に確認し主治医とも連携をとっている。その他は週1回、母体の協力医の往診時に診て貰い、いつでも受診できる体制になっている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br><br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居契約時に、重度化の対応についても文章で説明し同意を得ている。重度化への兆しがある時は家族、主治医と頻繁に話し合い、方針を確認している。ベッド上の状態が続き、食事も摂れない時や治療が必要な場合は入院を奨め、終末期の看取り介護は行っていない。退院後、ホームでの生活が困難な場合を想定し、次の生活の場として介護老人福祉施設入所の相談にのり家族の心配に対応している。 | | |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**<br>**1．その人らしい暮らしの支援**<br>**（1）一人ひとりの尊重** | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br><br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者との信頼関係に基づいた、丁寧な言葉遣いや対応に努めている。特に、声のトーンで尊敬のこもった会話になっているかを大切にし管理者は職員が自覚できるように指導している。記録等の書類は事務所に保管し、個人情報の取扱いに注意している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事、レクリェーション、入浴などの時間は決めている。起床、就寝時間は本人の希望に沿って対応し、その日の利用者の状態を見ながら、家事の手伝い、散歩、居間でテレビを見て談笑するなど、のんびりと過ごせるように支えている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>（取り組みを期待したい項目） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員は利用者の可能性を引き出し、盛りつけ、配膳などを一緒に行い、食後は、利用者が作業を分担して後片付けに参加している。月に２回、「パン食の日」「お好み献立の日」を計画し、買い物、調理に利用者も加わり、食の楽しみを定期的に行っている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎日午後から入浴ができ、嫌がる人には声かけの工夫で最低でも週2回の入浴を行っている。利用者の希望に沿い曜日変更や足浴などに柔軟に対応し、日曜日には法人の介護老人福祉施設の広い浴室を使い、ゆったりした入浴で利用者に喜ばれている。 | | |
| （3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 食事や掃除の手伝い、洗濯物たたみなどに参加している。共用型デイサービスの利用者と一緒のレクリェーションでは体操、歌、ゲーム、踊りなどで過ごし、毎日の生活に張りを与えている。夏にはベランダで花火を楽しみ、毎月のバス外出には家族の参加もある。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 暖かい時期にはゴミを捨てるついでに、高台にある法人施設の広い敷地内を散歩したり、近くの公園に行くなど、毎日のように出かけている。冬季には広い併設の施設内を歩いている。 | | |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | １階の玄関は併設施設の事情もあり、表から入ることはできるが、出るときは職員の操作で対応している。３階にある各ユニットの中央に共通の事務所室があり、日中は鍵をかけないで安全に見守っている。エレベーターホールに来て外に出たい様子がある時は、思いを聞きながら対応を工夫している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>（取り組みを期待したい項目） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| 27 | 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 法人内の介護老人福祉施設、介護老人保健施設との相互に協力する体制の中で利用者も参加し合同訓練を年に2回実施している。１回は消防署の指導のもとに日中や夜間を想定した避難訓練を、もう１回は初期消火、誘導などを、法人合同での自主的な訓練として行っている。 | | |
| **（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援** | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスは、法人内介護老人福祉施設の管理栄養士が献立表を作りホームと連携し管理している。食事量は「生活アセスメントシート」で詳細にチエックし、必要に応じて捕食で対応し、水分量は「健康アセスメントシート」に記録し､1500ccを目標にし、摂取困難時には果物やゼリーなど個人の好みで摂れるようにしている。 | | |
| **2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり**<br>**（1）居心地のよい環境づくり** | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間は広く明るく開放的である。山側の窓からは季節の木々を見渡すことができ季節感が楽しめる。年間の季節行事には飾り付けで季節感に配慮しているが、普段は観葉植物や手芸の額、利用者の習字作品など、程よく飾ってある。廊下の突き当たりで景色を眺めながら、数人で談笑できるようなコーナーも用意してある。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室はよく整頓されており、清潔感がある。利用者が大切にしている仏具や掛け軸、お茶道具のセットなどが置かれ、また、使い慣れたタンス、ジュータンなどが設置され、好みの縫いぐるみや飾りつけなど、個人に合わせた配慮がなされている。 | | |

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。